

各位

三神地域農業指導者連絡会作物部会  
三神農業振興センター

「稲作情報（第9号）」について（送付）  
このことについて、下記のとおり送付しますので、業務の参考にして下さい。

## 稲・大豆作情報（第9号）

### 1. 情報田生育調査結果について

#### (1) 耕種概要

品種名	夢しずく (上峰町)	さがびより (みやき町)	ヒヨクモチ (神崎市)
移植日(月日)	6月11日 (平年：6/9)	6月18日 (平年：6/20)	6月23日 (平年：6/19)
栽植密度(株/㎡)	15.6 (52.1株/坪)	16.8 (55.9株/坪)	18.7 (62.2株/坪)

#### (2) 調査結果（8月31日現在）

品種名	夢しずく	さがびより	ヒヨクモチ
草丈(cm)		93.8	81.8
平年値(平年比)		—(—)	—(—)
莖数(本/㎡)	出穂期 8/14	424	525
平年値(平年比)		—(—)	—(—)
葉齢(L)	止葉葉位 13.5	15.1	15.9
平年値(平年差)		—(—)	—(—)
葉色(SPAD値)		31.2	32.2
平年値(平年差)		—(—)	—(—)

#### 概況

気象（8月23日～8月30日までの期間）

【平均気温】平年より2.1℃高い。

【日照時間】平年比122%と多い。

【降水量】平年比21%と少ない。

出穂期「さがびより」8月30日（平年9月1日）

注1) 「さがびより」「ヒヨクモチ」は累年データ不測のため、本年R1,2年データ欠損のため、平年値はH28～R4(R1,2除く)5か年の平均値。

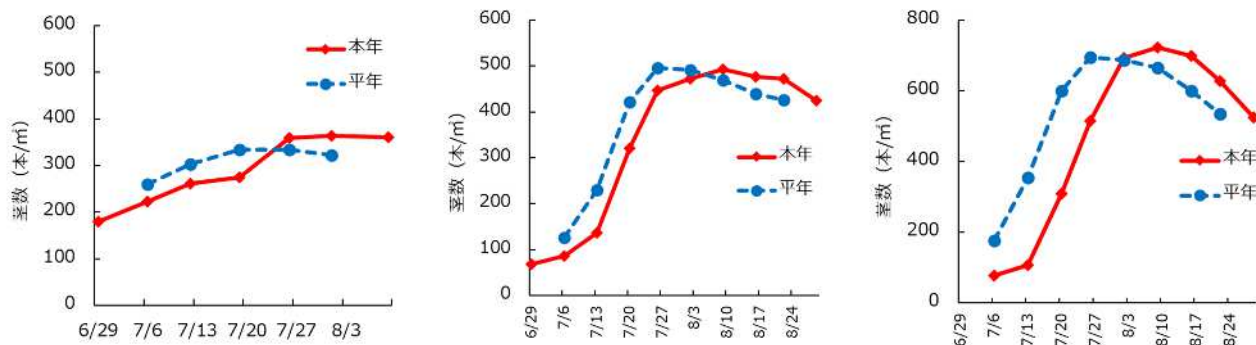


図 茎数の推移（左：夢しずく、中：さがびより、右：ヒヨクモチ）

移植日	項 目 品種	年次	草丈 cm	茎数 本/m <sup>2</sup>	葉齢 L	葉色 SPAD	概況 (平年と比較して)
6月19日	夢しずく	本年 平年 平年比(差)	出穂期:8月17日 出穂期:8月17日 ±0			[気象] 8月21日～8月27日まで ◆平均気温…高い(平年差+2.0) ◆日照時間…長い(平年比113%) ◆降水量…少ない(平年比9%) [生育] ◆草丈 「さがびより」はやや低く、「ヒヨクモチ」は平年並み。 ◆茎数 「さがびより」「ヒヨクモチ」どちらも多い。	
	ヒノヒカリ	本年 平年 平年比(差)	出穂期:8月27日 出穂期:8月27日 ±0			◆葉齢 「ヒノヒカリ」の主稈葉数は平年並みであった(主稈葉数:本年14.5、平年14.3)。 「さがびより」は平年並み、「ヒヨクモチ」はやや進んでいる。	
6月20日	さがびより	本年 平年 平年比(差)	92.3 96.7 95	462 418 111	15.0 15.2 -0.2	34.5 33.3 +1.2	◆葉色(SPAD値) 「さがびより」はやや高い、「ヒヨクモチ」は平年並み。 ◆葉耳間長 「さがびより」は+11.8cm、「ヒヨクモチ」は+6.0cmとなっている。
	ヒヨクモチ	本年 平年 平年比(差)	80.0 80.9 99	658 446 148	16.2 15.4 +0.8	35.9 35.7 +0.2	
留意点	○ 水管理は、穂肥施用時の湛水管理を除き、引き続き間断灌水を行う。 ○ トビイロウンカ、紋枯れ病、斑点米カメムシ類の発生が多くなると予想されている。圃場での発生状況を確認し、状況に応じた防除を行う。						

## 2. 普通期水稻の今後の管理について

すべての品種で穂孕み期～登熟期となっている。  
収量・品質に影響を及ぼす時期であるため、圃場管理を適正に行う。

### (1) 水管理

- ・「夢しずく」は乳熟期～糊熟期、中晩生品種は穂ばらみ期～出穂期ごろとなっている。水分ストレスに敏感な時期となっているため、強い水分ストレスを与えないよう間断灌水を実施し、湿潤状態を保つ。

### (2) 穂肥

- ・「ヒヨクモチ」は穂孕み期ごろとなっている。
- ・実肥を施用する場合は、表1を参考に穂揃期(平年:9月8～10日)に施用する。

表 1. ヒヨクモチの穂肥時期と穂肥量

肥料	穂肥 I 施用量 (kg/10a)	施用時期 の目安	穂肥 II 施用量 (kg/10a)	施用時期の目安	実肥施用量 (kg/10a)
LPBB804	40 (平坦:JA さが東部地区)	8月20日頃	なし	—————	なし
	35 (山麓:JA さが東部地区)				
	30 (JA 神埼地区)				
BB602	25 (平坦:JA さが東部)	8月20日頃	10 (JA さが東部)	8月25日 ~ 27日 (穂肥 I の10日後)	10 (JA さが東部)
	25 (JA 神埼地区)		15 (JA 神埼地区)		

注1) 大豆跡の圃場では、穂肥の散布を控えるか、上記施用量の5割未満に減肥して施用する。  
 注2) 実肥を施用する場合は、穂揃期(平年:9月8日~10日頃)に施用する。

(3) 病害虫防除

- 各圃場での発生状況に注意し、適切な防除を行う。

① トビイロウンカ

- 8月29日の調査では、その他ウンカ類の幼虫および成虫を確認しており、トビイロウンカはごくわずかであった。
- 防除実施後も各圃場での発生状況に注意し、発生がみられる場合には臨機防除を実施する。

※本年は多発生条件となっており、今後急増する場合もあるため、発生状況に注意し、適期防除に努める。防除適期は「幼虫心化揃い期」

- 今後、発生予測は随時更新されるため、防除の考え方等については、最新情報を農業技術防除センターのホームページで確認し、適期防除に努める。

佐賀県 農業技術防除センター

防除適期③

9/20~9/26頃  
農薬の使用晩限に注意

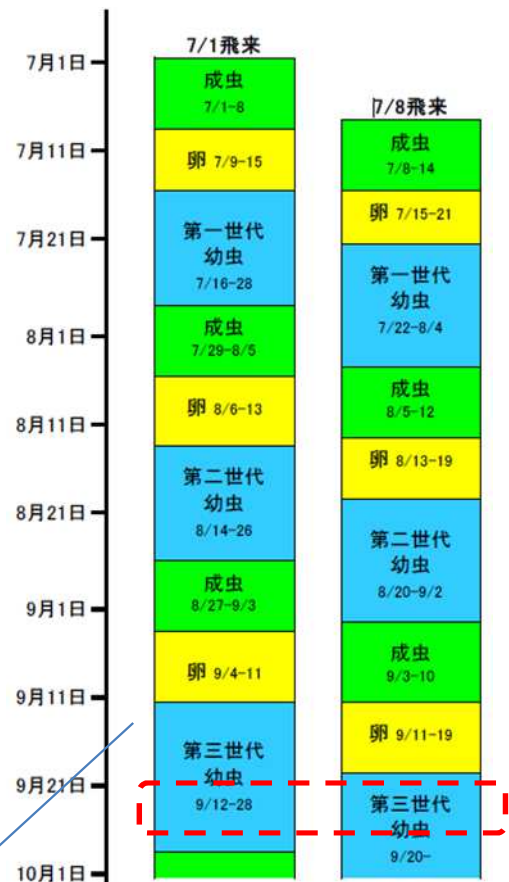


図 トビイロウンカの発生予測  
第4版、2023年8月28日作成

② コブノメイガ

- 県内各地で誘殺が確認されており、管内でも散見されている。
- 止葉を含む上位3葉に被害が出ると減収につながるため、圃場ごとの発生状況を確認したうえで、幼虫心化揃い期(発蛾最盛期の7日後)に防除を実施する。

③ 斑点米カメムシ

- 乳熟期(穂揃い期の約10日後)を中心に農薬防除を行い、多発生の場合はその7~10日後に2回目防除を行う。
- 防除はカメムシが穂に上ってくる夕方に行うと効果が高い。

#### ④紋枯病

- 高温多湿条件が続くと、紋枯れ病が発生しやすくなるため注意する。
- 病斑を確認した場合は、病斑が上位葉の葉鞘に進展（垂直進展）する時期に防除を検討する。（液剤・粉剤の場合は、出穂前 10～20 日間を目安）



写真 紋枯病の病斑  
(前年撮影したもの)

### 3. 大豆の今後の管理について

7月15日播種で開花最盛期～末期、7月20日以降播種で開花期ごろとなっている。高温少雨傾向が続いており、県内各地で9月頭から干ばつ予報となっている。開花期以降は特に水分を必要とするため、暗渠排水の栓を閉めるなどして土壌水分の確保を図る。

#### (1) 今後の天候について

参考) 週間天気予報 (佐賀県8月30日17時時点 佐賀地方気象台より)

2023年08月31日11時 佐賀地方気象台 発表									
日付	今日 31日(木)	明日 01日(金)	明後日 02日(土)	03日(日)	04日(月)	05日(火)	06日(水)	07日(木)	
佐賀県	曇時々雨 	曇 	晴時々曇 	晴時々曇 	曇時々晴 	曇 	曇一時雨 	曇一時雨 	
降水確率(%)	-/-/70/40	20/20/10/0	20	20	30	40	50	50	
信頼度	-	-	-	A	A	B	C	C	
佐賀 気温 (℃)	最高	32	33	36 (35~38)	36 (34~38)	35 (33~37)	36 (33~38)	34 (31~37)	33 (31~36)
	最低	-	26	26 (24~27)	25 (24~27)	26 (25~28)	26 (25~28)	26 (25~28)	26 (25~28)

#### (2) 中耕・培土の実施

- すでに開花期を迎えている圃場では、断根による根の活力低下の恐れがあるため、今後の培土は行わない。

#### (3) 除草剤について

- 雑草の発生が多い圃場では中耕培土後に雑草の発生に応じて生育期の茎葉処理剤を散布する。
  - イネ科の残草が多い場合はポルトフロアブル、ナブ乳剤、セレクト乳剤。
  - 広葉の残草が多い場合は大豆バサグラン、アタックショット乳剤等。
- 大豆の2葉期～開花前まで ※ラベルを確認し、登録内容に従って使用する。
- アサガオ類、ホオズキ類の難防除雑草が多い地域では、圃場内侵入防止に努める。また、圃場内に発生している場合は、発生が少ないうちに雑草の開花や結実前までに茎葉処理剤のスポット散布や手取りによる徹底防除を行う。

#### (4) 病虫害対策

- 「病虫害発生予察情報第5号(8/9発表)」による主な病虫害の8月下旬予報は以下のとおり。各圃場での発生状況に注意し、適切な防除を行う。

①ハスモンヨトウ・・・やや多

- ・今後の予報では「気温は高く、降水量はやや多い」とされており、多発生の条件となっている。
- ・管内圃場でも幼虫や白変葉が散見される。
- ・防除適期は、若齢幼虫による白変葉が見られ始めた頃であり、防除が遅れ中齢幼虫以上（体長約 2cm 以上）になると防除効果が低下する。
- ・防除後約 3 日経過した後も高い密度で食害を続けている場合は再防除が必要。

②カメムシ類・・・やや多

- ・予報では「気温は高い」とされており、多発生の条件となっている。
- ・管内圃場でも発生が確認されている。
- ・防除適期は、莢の伸長初期から子実肥大中期である。

③その他

- ・管内圃場でオオタバコガやウワバ類と思われる食害が確認されている。
- ・ハスモンヨトウによる白変葉と異なり、葉に穴が開くように食害されている場合は、オオタバコガ等の虫害と考えられる。
- ・オオタバコガやシロイチモジヨトウには、ノーモルト、トレボンの感受性が低下しているため、使用を避ける。



ハスモンヨトウ



オオタバコガ



シロイチモジヨトウ

